

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和3年1月28日(木)
13時16分開会 13時42分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：中島里司 副委員長：山下清美
委 員：鈴木孝寿、口田邦男、高橋政悦
議 長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦、次長：宇都宮学
- 5 議 件
 - (1) 委員長の選出について
 - (2) 副委員長の選出について
 - (3) 所管事務調査の申し出事項について
 - (4) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

議長（櫻井崇裕）：只今より、議会運営委員会を開催する。

初めての委員会なので、委員長が決定されるまでの間、委員会条例第9条第2項の規定によって、年長委員である中島委員に臨時委員長をお願いする。

それではよろしく願います。

(1) 委員長の選出について

臨時委員長（中島里司）：臨時委員長の職務を行うので、よろしく願います。

これより委員長の選出を行う。お諮りする。

委員長の選出方法は、どのような方法により行うか。鈴木委員。

鈴木委員：指名推選でお願いしたい。

臨時委員長：指名推選という声があった。他に意見はあるか。

（「なし」との声）

臨時委員長：指名推選でよいか。

（「はい」との声）

臨時委員長：異議なしと認める。

よって、指名推選の方法により行う。

それでは、ご指名をお願いする。鈴木委員。

鈴木委員：中島委員にお願いしたい。

臨時委員長：只今、中島委員の指名があった。

他にないか。

（「なし」との声）

臨時委員長：無いようなので、中島委員のご指名に異議はないか。

（「異議なし」との声）

臨時委員長：異議なしと認める。

よって、中島委員が委員長に選出された。

(2) 副委員長の選出について

委員長（中島里司）：会議を続ける。委員長に就任した、よろしく願います。

これより副委員長の選出を行う。お諮りする。

副委員長の選出は、どのような方法により行うか。鈴木委員。

佐藤委員：委員長指名でお願いしたい。

委員長：委員長指名との声があったが、他に意見は無いかな。

（「なし」の声）

委員長：委員長指名に異議はないかな。

（「異議なし」との声）

委員長：異議なしと認める。

よって、私から副委員長を指名する。

山下委員を副委員長に指名したい。承諾をお願いする。

委員長：山下委員が副委員長に選出された。

山下委員、その場で就任の挨拶をお願いする。

副委員長（山下清美）：よろしくお願いしたい。

（3）所管事務調査の申し出事項について

委員長：次に、所管事務調査事項についてを議題とする。お諮りする。

議会運営委員会は、閉会中においても定例議会の日程などの調査を行う必要があるため、これまで「議会の運営とその諸規定について」及び「議長の諮問に関する事項について」を定例議会の都度、調査事項として申し出を行っている。

今後も今までと同様に申し出を行うことにしたいと思うが、よろしいかな。

（「異議なし」の声）

委員長：異議が無いようなので、調査事項については、「議会の運営とその諸規定について」及び「議長の諮問に関する事項について」を議長へ申し出することとする。

（4）その他

委員長：その他について事務局から何かあるかな。

事務局長（田本尚彦）：議会費に係る新年度予算について、以前、全員協議内の中で議会費に係る予算の中で、任期中1回の道外の研修に係る経費について、通常2年目に実施をしているところだが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染の関係で実施が見送られたということで、令和3年度の予算の中で計上していきたい旨説明してきたところ。今回町側の予算査定を経て、職員、町長も含めて各種事業の道外の旅費については、当初予算の計上を見送る方向で調整をしているということ。これに伴い議会で計上している予算については議会側の判断ではあるが、町側の対応状況はそういうところであると説明があった。状況を見て、コロナウイルス感染症の状況が鎮静化し、道外等への各種事業の取り組み等ができるところになれば、改めて補正予算等で予算計上して対応する考えもあるということで、それらを踏

まえて議会費については道外視察の常任委員会2委員会の経費とアカデミーの研修3名分の計上について、執行側の職員研修の道外分について計上を見送っていく予定とのことで、同様の対応が必要かということを確認していただきたい。確認が取れば、本会議終了後の全員協議会の中で説明・報告したい。

あと、道外の研修予算を見送る部分については、道内の研修については道外研修がないときに例年行っており、それらについては予算措置をして、道内の視察研修に対応できるような当初予算の内容としたいと考えているので、併せてご検討いただきたい。

委員長：只今、事務局長から道外研修4年に1度で2年目折り返しに過去において実施してきた。それから行けば今年度が該当年度になるが、新型コロナウイルスの状況でまだ不安材料がたくさんあるという部分で、町も道外については旅費を抑えているということで、それらも踏まえ、議員についても道外研修については当初予算では見ない。その後のことについてはコロナの状況を見て議会で判断し執行側と協議していくことだと思う。そういうことで皆さんご承知おき頂けるか。高橋委員。

高橋委員：はっきり言って今までも道外に行く、行政も議会も含めて必要だから行ったのであって、まさか必要もないのに行っていたということは無いと思うのに、なぜそこでコロナのせいで行くのをやめるって今の段階で決めるのかよく分からない。これ、当然のように次年度予算で3月定例会の議案として出てくると思うが、その時に明らかな理由を問いただそうとする立場の議会が、自分たちも行政に合わせて予算組みしないなどというのは、何かちょっとおかしい話なのかなと思う。議会は議会が必要だということとで予算計上しておくというのは必要ではないかという気がするが、いかがか。

委員長：今、高橋委員から、必要なものは必要ということだと思うが、この意見に対して他の委員から何かあるか。

私が答える立場ではないが、考え方として、必要が無いという議論は執行側はしているわけではない。ただコロナの今の蔓延状況を見たときに、必要なものは必要だが、当初から上げるか上げないかの問題。必要性については無いとは言っていない。執行側の考えはそういうことか。局長。

事務局長：当然、今委員長のお話にあった、状況として今道外に出るところを想定することが難しい状況で、当初予算を組むのはどうかということでそういう判断をしているということなので、状況が変わって道外に行くことが可能になった時点で、必要な旅費等の措置を補正予算でしていきたいという説明を受けている。

委員長：高橋委員。

高橋委員：皆さんご存じのように昨年12月の定例会で、万全な体制を持って11月に2度も本州に出張をされている町長が、今更そんな話でというのはちょっとおかしいことではないかと皆は思わないか。初めから必要で、あの時はっきりと必要だと言った。絶対にこの時期に行かなければいけない。そんな人が、今そんな状況ではないので予算付けはしませんとは、とても変な話かなと思う。我々議員は、それに合わせて予算組まないではなくて、我々はこういうことを見に行きたい、当然そういうことがあると思う。であれば最初から行政に倣って予算を付けないというよりは、うちは状況に応じて行かないのは行かない、そう決めれば良いだけであって、そんなに細かい予算

付けとはならないと思うので、そこはきちっとしたスタンスというか、そういうところを考えていった方が良くと思うがいかがか。

委員長：他の委員のご意見があれば伺いたい。ただ、昨年の執行側がとった行動を、今これに絡めて議論するのは難しいかと思う。考え方として私は一定の理解はできるが、この場でそれを絡めてということにはならないと思うので、あくまでも議員として道外研修を実際に行うことができない訳ではないので、やはり今、話題も変わるがオリンピックまでやるかやらないかという議論が出ている。先のことはまだやはり不確定あるいは不安な部分があると思う。それからいうと今こういう状況の中で、道外研修ということで、全員で200万円ぐらいというのは決して小さな数字ではないと思う。今回こういう状況下の中で、それを議員の意思として当初に200万円近い計上をしていく、それが逆に去年と同じではないかということになってしまう。そういうことも考えられるので、ひとまず執行側がどうこうではなく、我々としては確実に調査項目、調査場所について、4月以降も協議する場が多々あるので、それに応じて補正を組んで堂々と予算組める環境の中で要求していった方が良くはないかと思うがいかがか。鈴木委員。

鈴木委員：高橋委員の意見ももつともで、決して行かないと言っているわけではなく、必要に応じて行く。ただ今その必要場所がまだ検討中というか、今年変わったばかりなので。我々の理由としては今場所の選定ができない中で予算組みするのもいかななものかと思うので、町から言われた、執行側から言われたのではなく、今回必要事項が上がった段階で補正の措置をしていくという方が筋だと思うので。今のところは場所が決まっていないのでというのと、その状況が今芳しくないということもあるので、町から言われたのではなく自主的に、今検討中ということで今回予算を計上しないという姿勢であるべきかなと思うので、そのような説明を今後していくほうが、よろしいかなと思っている。

委員長：他に意見は。口田委員。

口田委員：高橋委員の言うことも分からない訳ではない。十分わかるが、今このご時世において予算を出すことが良いことか悪いことかという、ちょっと今の段階では出さないほうが良いと思う。そうかそうかと聞いておいて、後は理由というのは予算委員会等で詰めればよいこと。現時点では無しでいいと思う。

委員長：休憩で本会議を待っていることもある。これについては鈴木委員、口田委員からも意見があったが、議会の主体性を持った中で、このコロナ禍の中では慎重に見極めていく必要があるという理解の中で、あくまでも議会が主体性を持って当初予算から載せない。執行側の意向というのは、一般会計のほうではそういう意向を示しているが、議会としては今の意見等のように当初予算からは見送り、必要に応じて、あるいは視察研修なので相手方の事情もあるので、こちらの意向だけでは実施できないので、そういう状況を見た上で年度途中でも議題として協議して行きたい。この件についてはこれで終わらせて頂いてよいか。

(「はい」の声)

委員長：それではそういうことで終わらせていただく。主体性を持って判断していく。

事務局から何かあるか。事務局長。

事務局長：ご説明しているが、道外の視察研修とアカデミー研修3名分と合わせて考えているがそういう整理でよいか。

委員長：アカデミーで3名2年前から実施しているが、それらについても今の状況下で移動するということが、目的地は収まっても移動していく過程の中で収まらなければ中々移動し辛いことも考えられるので、アカデミーについても当初予算では議会としては時節柄自主的に計上しないことでよいか。それらについても状況を見て補正予算で考えて、当初予算では必要なものではあるが今回は計上を見送るということで。鈴木委員。

鈴木委員：アカデミーの場所が千葉県、滋賀県、基本的に東京、大阪を通らなければならない。今は非常事態宣言も出されているところなので、何時になるか分からない状況の中で、落ち着いた段階で積極的に補正は組むべきと思う。昨年も実施できていないので、3名に拘る必要はないのではとずっと思っている。実質昨年の分を含めれば6名ぐらいまでかと思う。できるだけ勉強はしていこうという意味合いで作った取り組みだから、3名をめぐりにしつつもできるだけやれる範囲で行きたいという人は行かせてあげたいという方向性で、今後も協議していただきたい。計上しない部分については今の段階で非常事態宣言が出ているところを必ず通らなければいけないという部分で考えれば、今の段階は計上しない。しかし今後状況を見ながら、秋口にもあるので、是非柔軟な対応をしていってほしい。

委員長：今鈴木委員からの話を十分踏まえて、事務局にも承知おきしていただきこれで終わりたいがよろしいか。議長。

桜井議長：先ほど加来委員から議会運営委員会開催前に、慣例では委員会と役職がぶつからないように。今回中島委員長と山下副委員長として、山下副委員長においては常任委員会の副委員長も受けられて、今議会運営委員会でも就任した。副委員長は委員長代行の立場もあるので、なるべくそういうことを避けるように今まで慣例となっていたということだけれども、これについてはすでに本会議で委員会構成、各常任委員会で正副委員長が決まっているので、今回については慣例によらないで、当該委員会の選出を尊重していくこととなると思うが、本会議の中で修正が出るかどうか分からないが、質疑があるかも知れないがそういう答弁をさせていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

委員長：只今、議長からの話を理解いただけたか。そういうことで今回は議会本会議場でも既に議長から発言、そして決まっていっているので、今回については議会で決まったとおりにしていく。今後についてはケースバイケースなのでどうこう申し上げる必要はない。若干今までとは違うということだけ、ご承知おき頂く必要があると思う。ご了解いただいてよいか。

(「はい」との声)

委員長：他に何か。事務局からも無ければ、今日の議会運営委員会の会議を閉じたい。

【閉会 13:42】